

# 全科協ニュース

1976年5月1日発行  
(通巻第29号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園  
国立科学博物館内

☎ 110

TEL.822-0111 (大代)

おもな内容：◇博物館職員の訓練 (Training for the Museum Profession) について 国立科学博物館 福田繁  
◇今年の展示更新とその意図 室蘭市青少年科学館 鳴海由次郎 ◇全科協北から南から 遊び場 東京都児童会館 山下昭三 ◇全国科学博物館協議会会則 会員館園名 ◇会員館園の紹介 鳳来町立鳳来寺自然科学博物館

## 博物館職員の訓練 (Training for the Museum Profession) について

国立科学博物館長  
ICOM日本委員会 委員長 福田 繁

### I

(1) 現在アジア地域には多くの博物館があるが、その種類は歴史・考古・民族学・美術などが中心である。最近はその国の歴史資料を展示するものや国の発展に寄与する科学技術の資料を展示するものなど新しい博物館が建設され、あるいは計画されている。

また、アジア地域にはいままで自然史に関する博物館は地学関係や動植物園を除いてその数が極めて少なかったが、自然史博物館も最近計画されているものが2～3ある。

もともと、アジア地域には古い遺跡や考古学、民族学の資料が豊富であるばかりでなく、自然史的資料も極めて豊富であるから、これらの資料を基にした極めて特色のある博物館が今後できることに期待がもたれている。

しかし、多くの国が既存の博物館を充実発展させようとする場合も、また新しく博物館を建設しようとする場合にも共通して直面する困難は施設・設備・資金の面だけでなく専門職員の充実、確保という点であろう。優秀な専門職員(行政職員・技術職員を含む)を確保することが最大の難事である。また、既存の博物館が収集している貴重な博物館資料の保存管理についても、高温、多湿の国においては保存技術の向上が望まれており、これに携わる職員の訓練が必要とされている。

インド、日本などにある保存研究所においては常により高い技術と研究の発展のために努力が払われているが、アジア地域のすべての国の保存事業をカバーできるほどの余裕はない。

(2) わが日本の場合について述べる。

わが国では、博物館の範疇に入るものが1,300施設以

上あるが、そのうちで博物館法によって博物館と認められているものは、国立、公立、私立を合わせて417館である。その他は博物館類似施設で、比較的小規模のものが多い。

博物館を種類別に分けると人文系博物館が最も多く全体の53%を占め、次いで自然科学系博物館が32%で、総合博物館が15%となっている。

わが国では最近になって博物館の建設が目立っているが、とくに最近の5カ年間に公立博物館の建設が著しかった。これは、県、市などの自治体が明治100年記念事業として相当規模の大きい博物館を建設したことなどによる。

これらの博物館には現在約5,000人の博物館職員がいるが、そのうちで学芸員は全体の10%に過ぎない。平均1館当たり1.3人となっている。なかでも、自然科学系博物館はこれを下回る貧弱さである。

現状では、専任の学芸員が1人も置かれていない博物館すらあるが、これは自然科学系博物館の学芸員の養成が不十分で、常に不足しているからである。

わが国の博物館には上述の学芸員のほか管理職員、教育職員、技術職員などが置かれているが、これらの職員についても他の職業と異なった専門的知識及び技能が必要であることは言うまでもないところである。

従って、わが国においても博物館の専門職員の養成並びに訓練は他の国におけると同様重要な課題となっている。

(3) 次にわが国の学芸員の養成方法を紹介すると、わが国では学芸員の資格は博物館法で定められており、大学において一般教科のほかにも博物館学4単位、博物館実習

3単位と併せて、教育原理、社会教育概論、視聴覚教育をそれぞれ1単位ずつ修得することが必要とされている。従って、大学において所定の単位を獲得し学士の称号を有する者か、あるいは他の方法すなわち文部大臣の指定した講習において、同一の単位を修得し、大学卒業者と同等以上の学力を有すると認められた者に限られている。

上記の単位数は博物館の業務から見て、最低の基準とされているので、もっと高い教養と経験をもつ者でなければ複雑な博物館の業務を遂行することは困難である。従ってわが国立科学博物館では最近学芸員としての採用資格は少なくとも大学院の修士課程を修了した者以上の者でなければならないことにしている。

さらにまた、公私立の大学で養成される学芸員は主として人文科学系の歴史、民族学、考古学関係に限定されているので、自然科学系の学芸員は大学以外の講習でその資格を取得している。

かように学芸員の資格水準が低いので、大学卒業後も一定の講習を修了した者も、博物館に雇用された後にも現職研修を受けて、勤務のかたわら知識、経験を深めることが必要である。現職研修は国内の主要な博物館や博物館の団体が自主的に行っている。

ここに自然科学系博物館職員のために毎年実施されている研修プログラムを紹介しよう（別表1）。この研修内容は程度が高く、学芸員の資格取得が可能である。このほか、全国科学博物館協議会（J COSM）及び日本博物館協会が毎年実施した研究集会のテーマを参考として掲げておく（別表2・3…省略）。これらの研究集会は短時日であるが、博物館職員の研究意欲を高める上から有意義である。

II

(1) 博物館の施設、設備が近代的で立派で、展示資料も豊富であることは博物館にとって幸いなことである。しかし博物館は単に建物や収蔵庫に終わっては全く意味がないのである。地域社会の住民に関心をもたれ、学校教育、社会教育に役立つ活動をしなければ存在価値は薄い。この意味で博物館活動の中心となるものは博物館の基本的機能である資料の収集、調査研究、保存及び展示と教育活動などに直接携わる人々であることは言うまでもない。それ故に博物館が近代社会のニーズに適応してゆくにはこれらの人々が十分対応できる体制を作っておくことが根本である。いかに立派な資料や古文化財をもつ博物館であっても、その国の教育、文化の発展、ある場合には国の開発に貢献できるものでなければその意義は低いだろう。単に観光資源としてのみ存在するような博物館でも教育的あるいは文化的価値を発揮するように活動

(別表1) 自然科学系博物館職員の研修プログラム (1974—1975)

| 科 目    | 事 項                      | 時間数        |
|--------|--------------------------|------------|
| 博物館学   | 博物館概論 博物館の目的、機能、管理、運営等   | (72)<br>18 |
|        | 博物館資料の収集、保管及び調査研究（実習を含む） | 39         |
|        | 展示、教育普及活動（実習を含む）         | 15         |
|        | 社会教育概論                   | (15)       |
| 社会教育概論 | 社会教育の目的、内容、方法、形態         | 6          |
|        | 社会教育施設、社会教育指導者、行政等       | 9          |
| 教育原理   | 教育の本質、教育制度               | (15)<br>6  |
|        | 教育学習課程                   | 9          |
| 視聴覚教育  | 視聴覚資料の意義と活用              | (15)<br>3  |
|        | 資料の作成、操作、整理、保存           | 12         |
| 自然科学史  | 自然科学史の研究法                | (15)<br>3  |
|        | 西洋科学史                    | 6          |
|        | 東洋科学史                    | 6          |
| 生物学    | 動物分類学                    | (15)<br>3  |
|        | 植物分類学                    | 3          |
|        | 分子生物学                    | 3          |
|        | 生態学                      | 6          |
|        |                          | (147)      |

備考：a. 研修期間はか1月とし、前期、後期の2回に分けて実施する。

b. 参加資格は中堅職員で学芸員資格の未取得者とする。

すべきであると思う。

そこで博物館職員の Training が重要として見直されるべきであるが、その場合に、博物館職員にはいかなる程度の知識、技術が要求されるか、博物館の基本的機能とその諸活動に応じて定められるべきである。

(2) 博物館はその国の社会においてのみならず、国際社会においても、その存在と役割が重要視されている。にもかかわらず博物館職員にとっては、国内的にも国際的にもいままでは情報不足であった。また、外国からの技術書や刊行物を入手することすら困難がある。この点からも、博物館に関する情報、資料の交換や技術の公開などが要請される。

(3) 国際協力の例として、1974年ユネスコのプログラムに基づいて文化財の保存、修復研修コースがユネスコ・

アジア文化センター (Asian Cultural Centre for UNESCO) によって組織された。この研修に参加した者はその国の文化財の保存、修復に関係あるポストに在る者でこの分野で5年以上の経験をもった者であったから、少数であったが、実地訓練を織り込んだ研修プランによって、相当の成果をあげた。

また、わが国の博物館ではアジア諸国からの研修生を毎年少数ずつ受け入れて、実技の訓練を行っているものもあり、わが国立科学博物館では欧米からの研究者を少数受け入れている。

### III

(1) アジア各国はそれぞれ古い文化と伝統をもっており、その上に立っていままでの博物館運営を脱して、新しい方向を探求する時期にきていると思う。それはそれぞれの加盟国の問題であると同時にアジアにおいては地域協力が重要であり、それによって成し遂げられることが少なくないと思う。

(2) このときにあたり、1973年11月、ACC U主催でアジア博物館近代化に関する会議 (The Roundtable Conference on Modernization of Museum Activities in Asia) が東京で開かれた。この会議では、アジアにおける博物館活動の現状をふまえて、真剣にいかによれば博物館機能の充実が可能かについて語り合われた。この会議において情報の交換や博物館学の訓練、展示の交換、職員の交流などが必要なが共通の認識となった。そして特に参加国に共通の問題として訓練されたスタッフの不足が重要な問題として取り上げられた。このため、学芸員、中級スタッフおよび初級スタッフなど異なるレベルでの訓練が必要であるとされ、そのための施設を設置する必要があることを勧告したのである。

幸いにこの勧告は、たまたま同年12月ジョクジャカルタで開かれたアジア地域、文部大臣会議においても同趣旨のことが取り上げられ、アジア地域の文化発展政策の一つとして博物館職員の Training、を実施することが勧告され、強力な支持を得たのである。

### IV

われわれの博物館が社会に奉仕する任務を十分果たすには、博物館の職員を近代社会の要請にいつでも答えられるように、絶えず訓練することが必要である。特に科学博物館においては、次代の青少年に対して将来の科学研究への興味を喚び起こさせるためには、常に新しい科学的知識によって指導できることが必要である。

私はユネスコや ICOM の方針を考慮しつつ今回の会議を裏切るものにするために、以下の提案を試みたいと思う。

もちろん、これらの事業はユネスコの主導の下に実施

されることが望ましいことである。

#### (1) 地域訓練コース (Regional training course) の設定

博物館近代化会議で指摘されたように各級職員の訓練が必要であるが、就中学芸員、中堅スタッフの訓練が最も緊急の問題である。そのために実行委員会 (standing committee) を設ける。

実行委員会はコースの訓練内容、手順、予算、場所、その他の実行計画を作ることを目的とする。

#### (2) フェローシップの拡大

地域間の各級レベルの職員の交流が必要である。特に学問的レベルの交流は欠くことができないと思う。学問的レベルでは、共同の調査、研究や適時に行うシンポジウムなどは甚だ有益である。

このために、既にフェローシップを設けている国はその拡大に努力し、まだフェローシップを持たない国もできるだけ設けるようにして、地域間における博物館の発展を図る。

#### (3) Mobile team の派遣

優れた専門家のチームによって、博物館の基本的あるいは今日の問題を指導することも効果大きい。各国の専門家のチームを要請のあったところに派遣し、博物館の設立、運営、技術的問題などについて助言を行う。その実施についてはユネスコが従来から他の分野で実施してきたモービルチームの例に倣う。

最後にアジアにおける博物館はそれぞれの国によって事情は異なっているが、ICOM がかねてから重要視してきた博物館学の確立は、アジアにおいても最も重要な課題である。職員の訓練計画を通じて、アジアの博物館学の確立と発展に努める必要があると思う。

---

この論文は、さる3月22日から27日まで開催されたアジア地域博物館近代化会議で「博物館職員の訓練」について作成した Working Paper の全文です。これを中心とした論議が進められ、この中で3つの提案もそれぞれ勧告で採用されました。

#### 理事会、総会開催のお知らせ

昭和51年度全国科学博物館協議会理事会および総会を次のように開催します。

日時：6月24日(木)10時30分～13時

会場：国立科学博物館

議題：役員改選、昭和50年度の事業報告、昭和50年度の収支決算、昭和51年度の事業計画(案)、昭和51年度の収支予算(案)、その他

## 【新しい展示】

## 今年 の 展 示 更 新 と そ の 意 図

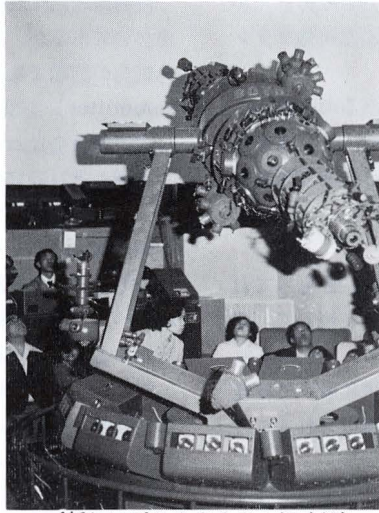
室 蘭 市 青 少 年 科 学 館

昭和46年、市の総合基本計画策定のため、各課の10か年長期事業計画大綱を提出せよとの通達を得た時点で、当館では検討の結果、展示品更新、実験機器整備、プラネタリウム本機更新を根幹とした計画を立案し、交渉したのち、大筋のところ実施計画が認められた。

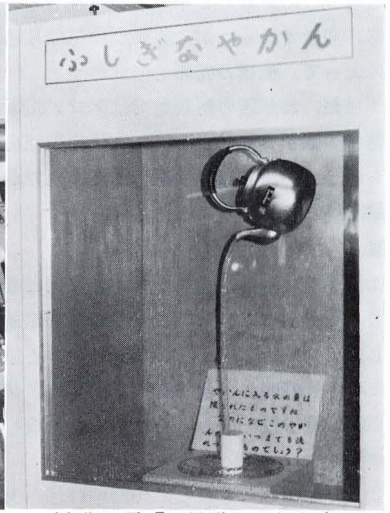
プラネタリウムの当初計画では昭和48年度実施がうちだされていたが、例のオイルショックによる物価の高騰と不況の影響で市財政も極度にひっ迫し、計画変更が相つぎ、実施計画が見直される状況下、50年度予算要求の折にプラネタリウム等については、小中学生の学習利用の無

料化を市の施策として行うとの市長のこともあって道の市町村振興補助金も認められ、市費と併せて3,400万円の予算で五藤光学研究所G X-10型を購入、附属投映機も30台を購入、従来のものとあわせて37台という（演出面できかにこれを活用しうるかは別問題として）最高の整備充実を13年ぶりに取りえたことは、予想をはるかに越える成果でありました。

他方、展示品の更新予算が実施計画の中では、毎年300万円より認められず、これを生かす道は何かと職員との協議を重ね、いずれにしても工業都市である以上、市の基幹産業に関連した展示品で、かつ、現在展示しているものとのかわりを強化する以外にないとの結論から、①電力、エネルギーコーナー、これを、よりよく理解させるための②基礎電気コーナーの充実を図ることにした。そして国立科学博物館、科学技術館、新日本製鉄、三菱重工、北海道電力などの御協力を賜わり50年度の更新に着手した。まず、2階に新しく電気の基礎実験解説コーナーを設け、オームの法則、電流と磁界、発電の原理、整流の実験、2極真空管解説装置、交流とコンデンサーの実験装置、3極トラスター解説実験装置など、楽しく電気に関する知識を身につけてもらう学習コーナーを配列し、それに、火力、原子力発電所の模型（漫画的手法のスライドにナレーションを入れて）を展示解説、フレミングの左手の法則の原理を応用したプリントモーターの構造を理解させる展示品、蒸気タービン単式衝動型の可動模型など一目でわかるものを配列した。この意図は現代のように急速に進展する技術を理



(新しいプラネタリウム投映機)



(自作展示「不思議なやかん」)

解、それに対応できる知識を得させようとするものがあります。これに、続くものとして3階に風力、潮力、太陽熱、地熱発電（既成）の展示品に新しく原子力電池、燃料電池、MHD発電など展示し、最後に未来の電化都市パノラマ（既成）を配列しておさめることとした。

こうして、基本的な原理、法則、そして、これらを発展させた展示の充実を図り来館者が自ら実験、操作をし「みんなの目と手と耳で確かめよう」を職員の合言葉に、当初の目的を限られたスペースの中で最低条件みたくすることができたと考えております。

また、以上の外に職員のアイデアを集めた自作展示品卓上計算機のしくみ（展示品の足下に踏板式の電源スイッチを取りつけた）、不思議なやかん（循環ポンプを利用）を製作しました。限られたマスの中のやかんの水がなぜ、いつまでも流れ落ちつづけるのか、子供の疑問を引きだし、解決の探究の過程を通して科学の方法や思考力を培い、子供たちの豊かな創造性をはぐくみ、理工系科学館の使命の一端なりとも果たし得よう努力したいと職員一同が願う今年の展示更新でありました。

(鳴海由次郎)

お願い 3月16日から18日まで「科学博物館における展示の理論と実際」をテーマに、第5回全科協事業研究会を実施しました。その際、山形県立博物館から提案があり、各博物館の建築、展示等についての設計資料を1か所に集め、必要な場合にはいつでも閲覧できるようにしようと申し合わされました。全科協事務局では早速実行にかかりたいと思いますが、各館園のお手持ちの資料の写を事務局へ御送付くださるようお願いいたします。なお、資料は国立科学博物館内の博物館文献センターで保管していただくようにしたいと思います。(事務局)

---



---

 全科協北から南から
 

---



---

## 遊び場

東京都児童会館 山下昭三

当会館は、ひらたくいえば「こどもたちのための屋根のある遊び場」です。ただ、その中にささやかながら、昆虫の標本とか、動力模型とか、未来のロケット模型とかの科学展示フロアーを3階にもっていることから、全科協の皆さんの仲間入りをしているわけです。

◆遊び場と展示——3階の展示フロアーの片すみにある汽車模型——長い間故障していましたが、ようやく今年の初めから動きだしました。山ありトンネルあり鉄橋ありの自然の風物をレイアウトした、5m足らずのだ円軌道走るミニ機関車は大変な人気で、日曜日ともなると開館中は休みなく運転です。一般的にも動く模型は人気があるのですが、これはこどもたちが自由に動かしたりできるうえ、その作動が古い電車の実物コントローラーによるものですからますます楽しいようです。

しかし、この楽しそうな姿を見ながらいつも割り切れない気持ちになります。この模型は、こどもたちに動く楽しさを与えてはいますがそれ以上のものを与えていないのではないか。ここに少しでも東京の風物がレイアウトされていたら、又機関車の発達やトンネルや鉄橋の必要性が物語られていたら、楽しく動かしながらも自然にこどもたちの脳裏に自分たちの歴史や科学の発達がキザミ込まれていくのでしょうか——それがありません。

確かに当会館は、こどもたちが余暇を楽しく過ごす——学校からの解放感、交通地獄と林立したビル地獄からの解放感をもって遊びにくる「こどもたちの遊び場」です。しかし、この解放感を味わいながらの遊びの中でも、こどもたちのパーソナリティはどんどん形成されていきます。やはり、楽しみながらも、おのずとパーソナリティの形成に役立つように展示物を与えること、——一つの小さな動力模型でも、無心にコントローラーを動かしながら、おのずと電車の変遷が、町や村の移り変わりが脳裏に残されていくようにありたいものです。

このことは、当会館の展示フロアーに共通していることです。「海洋開発模型」にせよ、「未来のロケットコーナー」にせよ、楽しい遊び場としてこどもたちに夢を、楽しさを、とあまり気を使い過ぎたため、動きには変化はあり面白さはあるのですが、こどもたちに何かを植え付けていくようなものが少ない気がします。だから、故障でもすると全くの「見世物」になってしまいますし、「一度は来て楽しいけれど二度三度と来る気はあまりない。」といわれることになっているように思えます。

こんなことは博物館の皆さんにとっては、展示のイロ

ハでしょうが、強制されることをきらう、思いつきが中心で、維持性も希薄、最後まで楽しさを求める「遊び」の場を受け持つ当会館の悩みです。

こどもたちが自由に楽しく遊び、何度でも来る気をおこさせる、又いつブラリとやって来ても楽しく受け入れてやる。——しかもその楽しい遊びの中で、おのずと自分たちの歴史を自覚する、科学を嗅ぎ分ける。——いかなれば、パーソナリティの形成がくみ込まれている。——そんな展示フロアーにしたいものです。

◆遊びと各室——展示フロアーのほかに、当会館の「遊び場」としてのもう一つの大きい機能は「各室」にあります。地下1階から5階まで、工作室、無線交信室、美術室、音楽室など10室あります。余暇を楽しく過ごそうと来るこどもたち、いかなれば「不特定多数」のこどもたちに、木工的な遊びを、音楽的な遊びを、又造形的な遊びを与えてくれます。ある「室」では、担当者が今までに作った制作レポーターを一つずつプリントしておき、入室したこどもたちがその中から自由に自分の好きなプリントを選びその制作を始める。ある「室」では、こどもたちは飾り戸棚にあるいろいろな作品を見て、その中から自分の好きなものを見つけてそれを作る。自由に好きな音楽を木琴とかピアノとかで弾く、——時には友達と合奏したり、時には一人一人パラバラに、——という具合です。各室の担当者は日曜休日ともなれば、それぞれこどもたちの勝手な注文にキリキリ舞いをしながら助言をしたり、手伝ったりするありさまです。

やはり、ここでもこどもたちの自由な、時には思いつきの行動が中心となって各室がいとなまれています。こどもたちへ提供するレポーターが少なかったり、自由選択が制限されたり、教え込みを中心にしたりと、とたんにこどもたちは遠のくように思えます。

しかし、自由な楽しい遊びの制作や活動の中にでも、パーソナリティの形成（発達）を忘れることはできません。「不特定多数」のこどもたちを相手にする各室の担当者は、こどもたちの入室の具合をみながら、提供した遊びの素材に果たして満足したのだろうか、はたまた、その遊びの中でどの程度「発達」（パーソナリティの形成）へのおいを嗅ぎ分けて帰ってくれたのかを気にします。

遊びをどのようにこどもたちに提供していくかは、展示室だけでなく、いまだにどうも良い結論が出てきません。

## 全国科学博物館協議会会則

第1条 本会は、全国科学博物館協議会と称する。

第2条 本会は、事務所を理事長館におく。

第3条 本会は、全国の自然史および理工系博物館ならびにこれらを包含する総合博物館（科学博物館の機能をもつ科学教育施設等を含む。以下同じ。）が相互の連絡協調を密にして博物館事業の振興に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業を行なう。

- 一 調査、研究および情報の交換
- 二 資料、文献等の交換および貸借の斡旋
- 三 研究会、講演会等の開催
- 四 自然史および理工系博物館に関する普及広報
- 五 機関紙の発行および研究成果の発表
- 六 その他博物館事業振興に必要な事業

第5条 会員は正会員維持会員および講読会員とする。

2 正会員は、自然史および理工系博物館ならびに、これらを包含する総合博物館とする。

3 正会員は別に定める会費またはこれに相当する実費を負担するものとする。

4 維持会員は本会の趣旨に賛同し、別に定める維持会費を負担するものとする。

第6条 本会に理事館および監事館をおく。

2 理事館、監事館は総会において選出する。

3 理事館、監事館の代表者をそれぞれ理事、監事とする。

4 理事長は理事の互選により選出する。

理事長は本会を代表する。理事長事故あるときは、

あらかじめ理事長が指名した理事が、本会を代表する。

5 理事長、理事および監事の任期は、2年とし、再任を妨げない。

6 理事長および監事は、任期満了後も後任者が就任するまでは、なおその職務を行なうものとする。

第7条 本会の運営は、理事会がこれにあたる。理事会は、理事長および理事をもって構成する。

2 本会の常務は、理事会が選出した常任理事がこれにあたる。

3 本会の会計監査は、監事がこれにあたる。

第8条 本会は、毎年1回総会を開く。

2 理事長が必要と認めるとき、臨時に総会を開くことができる。

3 総会は、本会の予算、事業計画および決算、事業報告その他重要事項を議決し、または承認する。

4 講読会員は総会で意見等を述べることができるが、議決権はないものとする。

第9条 本会には、自然史部会および理工学部会その他必要とする部会をおくことができる。

2 部会長は、理事の中から適任者を理事会で決める。

3 部会の運営について必要な事項は、それぞれの部会が定める。

第10条 本会の経費は、別に定める会費またはこれに相当する実費、寄附金その他の収入をもってあてる。

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

第12条 本会則の変更は、理事会の議を経て総会の承認を得なければならない。

付 則

本会則は昭和46年4月1日から施行する。

## 全国科学博物館協議会会員館園名

※印講読会員（昭和51年4月1日現在）

| 館 園 名               | 館・園長名 | 郵便番号   | 所在地               | 電話番号          |
|---------------------|-------|--------|-------------------|---------------|
| 釧路市立郷土博物館           | 小川 安久 | 085    | 釧路市鶴ヶ岱1-10-35     | (0154)41-5809 |
| 釧路市青少年科学館           | 佐熊 敏郎 | 085    | 釧路市春湖台1-7         | (0154)41-6225 |
| 室蘭市青少年科学館           | 内海 量夫 | 051    | 室蘭市本町2-2-1        | (0143)22-1058 |
| 秋田大学鉱山学部付属鉱業博物館     | 梅津 良之 | 010    | 秋田市手形字大沢28-2      | (0188)33-5261 |
| 岩手県立広田水産高等学校附属水産博物館 | 及川 勝  | 029-26 | 岩手県陸前高田市広田町大久保138 | (01925)6-4500 |
| 松 島 水 族 館           | 西條 直彦 | 981-02 | 宮城県宮城郡松島町波打浜16    | (02235)4-2020 |
| (財)斎藤報恩会博物館         | 畑井 小虎 | 980    | 仙台市本町2-20-1       | (0222)62-5507 |
| 山形県立博物館             | 誉田 慶恩 | 990    | 山形市霞城町1-8         | (0236)32-1111 |
| 福井市立郷土自然科学博物館       | 小林 貞七 | 910    | 福井県福井市足羽上町147     | (0776)35-2844 |
| 福島市児童文化センター         | 茂木 利夫 | 960    | 福島市桜木町8-13        | (0245)34-5754 |
| 木の葉化石園              | 加藤 信吉 | 392-29 | 栃木県塩谷郡塩原町中塩原472   | (0287)32-2052 |
| アリタキ・アーボレータム        | 有瀧 龍雄 | 343    | 埼玉県越ヶ谷市越ヶ谷2566    | (0489)62-1624 |
| 川口市立児童文化センター        | 田口 和夫 | 332    | 埼玉県川口市西青木4-8-1    | (0482)52-4995 |
| 東京都高尾自然科学博物館        | 石田 裕彦 | 193    | 東京都八王子市高尾町2436    | (0426)61-0305 |
| 東京農工大学附属繊維博物館       | 佐々木清文 | 184    | 東京都小金井市中町2-24-16  | (0423)81-4221 |
| (財)天文博物館五島プラネタリウム   | 鎗木 政岐 | 150    | 渋谷区渋谷2-21-12      | (407)7409     |
| 東京都児童会館             | 熊沢 繁樹 | 150    | 渋谷区渋谷1-18-24      | (409)6361     |
| 国立科学博物館             | 福田 繁  | 110    | 台東区上野公園7-20       | (822)0111     |

|                               |       |        |                        |                 |
|-------------------------------|-------|--------|------------------------|-----------------|
| 交 通 博 物 館                     | 古谷 善亮 | 101    | 千代田区神田須田町1-25.         | (251)8481       |
| 電 気 通 信 科 学 館                 | 白根 禮吉 | 100    | 千代田区大手町2-2-2           | (241)8080       |
| 通 信 総 合 博 物 館                 | 板倉豊文美 | 100    | 千代田区大手町2-3-1           | (270)3841       |
| (財)日本科学技術振興財団<br>科学技術館        | 田代 茂樹 | 102    | 千代田区北の丸公園2-1           | (212)8471       |
| 労働省産業安全研究所付属<br>産業安全技術館       | 秋山 英司 | 108    | 港区芝5-35-1              | (453)8441       |
| N H K 放 送 博 物 館               | 太斎 嘉行 | 105    | 港区芝愛宕町1-10             | (433)5211       |
| 農 林 省 蚕 糸 試 験 場               | 福田 紀文 | 166    | 杉並区和田町3-55-30          | (311)0121       |
| 船 の 科 学 館                     | 笹川 良一 | 135    | 江東区有明地先13号地その1         | (528)1111       |
| 川 崎 市 立 青 少 年 科 学 館           | 川辺 稔  | 213    | 川崎市多摩区生田緑地9310         | (044)900-2751   |
| 神 奈 川 県 立 博 物 館               | 高橋 繁蔵 | 231    | 横浜市中区南仲通5-60           | (045)201-0926   |
| 神 奈 川 県 立 青 少 年 セ ン タ ー       | 大胡満寿男 | 220    | 横浜市区西区紅葉ヶ丘9            | (045)241-3211   |
| 横 須 賀 市 博 物 館                 | 大平 辰秋 | 238    | 横須賀市深田台95              | (0468)24-3688   |
| 観 音 崎 自 然 博 物 館               | 井合 了治 | 239    | 横須賀市鴨居 4 南門            | (0468)41-1533   |
| 真 鶴 サ ボ テ ン ド リ ー ム ラ ン ド     | 松成喜久雄 | 259-02 | 神奈川県足柄下郡真鶴町真鶴1178      | (0465)68-0211   |
| 恩 賜 林 記 念 館                   | 乙黒 久治 | 400    | 山梨県甲府市丸の内1-5-4         | (0552)37-1595   |
| 熱 川 バ ナ ナ ・ フ ニ 園             | 木村 亘  | 413-03 | 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良木917-9     | (0557)23-1105   |
| 市 立 名 古 屋 科 学 館               | 佐藤 知雄 | 460    | 名古屋市中区栄2-17-22         | (052)201-4486   |
| 博 物 館 明 治 村                   | 谷口 吉郎 | 484    | 愛知県犬山市内山1              | (0568)67-0314   |
| 伊 良 湖 自 然 科 学 博 物 館           | 伊藤 務  | 441-36 | 愛知県渥美郡渥美町伊良湖宮下3000     | (05313)5-6631   |
| 鳳 来 町 立 鳳 来 寺 山 自 然 科 学 博 物 館 | 大原 廣  | 441-19 | 愛知県南設楽郡鳳来町門谷字森脇6       | (05363)5-1001   |
| 東 宮 町 御 園 天 文 科 学 セ ン タ ー     | 金子 功  | 449-02 | 愛知県北設楽東栄町大字御園          | (05367)6-0687   |
| 岐 阜 市 児 童 科 学 館               | 渡辺 啓市 | 500    | 岐阜市小椎谷251 岐阜公園内        | (0582)63-0290   |
| 名 和 昆 虫 博 物 館                 | 名和 正雄 | 500    | 岐阜市大宮町2                | (0582)63-0038   |
| 内 藤 記 念 く す り 資 料 館           | 内藤 豊次 | 483    | 岐阜県羽島郡川島町              | (0586)89-3111   |
| 神 宮 徴 古 館 農 業 館               | 鈴木 義一 | 516    | 伊勢市神田久志本町1754          | (05963)2-2141-3 |
| 鳥 羽 水 族 館                     | 中村 楠雄 | 517    | 三重県鳥羽市鳥羽3-3-6          | (05992)5-2555   |
| 大 津 市 立 科 学 館                 | 北川 英男 | 520    | 大津市におの浜4-2-12          | (0775)22-1907   |
| 仏 教 児 童 博 物 館                 | 中村 玄英 | 605    | 京都市東山区高台寺北門通り<br>東入鷺尾町 | (075)561-2710   |
| 大 阪 市 立 自 然 史 博 物 館           | 千地 万造 | 546    | 大阪市東住吉区東長居町長居公園内       | (06)697-6221    |
| 大 阪 市 立 電 気 科 学 館             | 辰己 博  | 550    | 大阪市西区西長堀北通1-6          | (06)531-1181    |
| 神 戸 国 際 港 湾 博 物 館             | 西川 光一 | 650    | 兵庫県神戸市生田区波止場町8         | (078)391-6751   |
| 明 石 市 立 天 文 科 学 館             | 橋本 徹  | 673    | 兵庫県明石市人丸町2-6           | (078)911-5826   |
| 津 山 科 学 教 育 博 物 館             | 森本 謙三 | 708    | 岡山県津山市山下97             | (08682)2-4519   |
| 香 川 県 自 然 科 学 館               | 高橋 正彦 | 726-01 | 香川県坂出市王越町木沢1901-2      | (08774)2-0350   |
| 愛 媛 亜 熱 帯 植 物 園               | 窪田 義直 | 791-31 | 愛媛県伊予郡松前町中川原928        | (08998)4-2033   |
| 龍 河 洞 博 物 館                   | 岡本 重則 | 782    | 高知県香美郡土佐山田町逆川1340      | (08875)2-2144   |
| 徳 島 県 博 物 館                   | 豊岡 磊造 | 770    | 徳島市西山手町1-1             | (0886)22-9011-2 |
| 鳥 取 県 立 博 物 館                 | 木代 彰  | 680    | 鳥取市東町2-124             | (0857)26-8042   |
| 伊 吹 植 物 園                     | 伊吹 道郎 | 680    | 鳥取市薬師町43               | (0857)22-2813   |
| 山 口 県 立 山 口 博 物 館             | 臼杵 華臣 | 753    | 山口市春日町8-2              | (08392)2-0294   |
| 萩 市 郷 土 博 物 館                 | 黒川 純行 | 758    | 萩市江向525-4              | (08382)2-3131   |
| 秋 芳 町 立 秋 吉 台 科 学 博 物 館       | 川崎 魁  | 754-05 | 山口県美禰郡秋芳町秋吉            | (08376)2-0640   |
| 佐 賀 県 立 博 物 館                 | 大園 弘  | 840    | 佐賀市城内1-15-23           | (09522)4-3947   |
| 宮 崎 大 学 農 学 部 農 業 博 物 館       | 木村 正雄 | 880    | 宮崎市船塚町100              | (0985)27-0214   |
| ※ 郡 山 市 児 童 文 化 会 館           | 長谷川勇二 | 963    | 福島県郡山市麓山1-5-25         | (0249)32-5326   |
| ※ 愛 媛 県 立 博 物 館               | 楠 博幸  | 790    | 愛媛県松山市堀之内              | (0899)41-1473   |
| ※ 和 鋼 記 念 館                   | 住田 勇  | 692    | 島根県安来市安来町881           | (08542)2-3501   |

---

 会 員 館 園 の 紹 介
 

---

## 鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館

松井 保

博物館は、天竜奥三河国定公園の玄関口、鳳来寺山(684m)の登山口に位置し、昭和38年4月に開館しました。建物は鉄筋コンクリート造りで本館は地下1階地上2階建、展示館は2階建です。本館と展示館は直結されており総面積1,028,52㎡、その内訳は本館が542,52㎡、展示館は465,12㎡、その他2,080㎡となっています。

## ダブル・アレジメント・システムの採用

この博物館の特徴は豊富な標本を有すること、二重展示方式(ダブル・アレジメント・システム)をとっていることです。二重展示方式とは入館者がまず入る1階は総合展示方式をとり、特別な関心を持っていない人でも興味を持つように、鳳来寺山を中心にした自然について生態的に展示してあります。2階の第2展示室は分類展示方式をとり、何か調べたい、研究をしてみたい……等特別な目的をもって入館する人に便利ようにしてあります。一般観光客や時間のない人は1階を見ただけでも目的を達し、更に興味を持つ人や研究者は、静かな2階で観覧、研究ができるように配慮しています。このような方式は日本唯一のもので博物館の誇りとしております。

## 総合展示(1階)

入館した人は入口にある仏法僧のケースでボタンを押すと、ブッポウソウ、ブッポウソウとコノハズクの神秘的な声が聞こえます。季節はずれで声が聞けなかった人はこれでコノハズクと仏法僧の違いを知ってまず興味をそそられます。次いで鳳来寺山付近の獣のところでもウモリ、サル、ウサギ、リス、テン、アナグマなどを生態的に展示、ハクビシン、特別天然記念物のカモシカも見ることができます。両生類のケースではモリアオガエルが標本と模型を使って展示され知らず知らずのうちにその珍しい習性を知ることができます。植物のケースには有名な鳳来寺スギ、野生ランの多彩な展示があり誰でも足をとめます。鳳来寺山植物展示では各季節の自然風景を大型パネルに描き、季節ごとに植物を入れかえます。

地学コーナーでは鳳来寺山が2,000万年前に誕生してから今日に至るまでを時代別に当時の景観を想定してパネルに描き、バクが生息していたことを知るあしあとの化石、サメの歯、貝類、魚類の化石をおもしろく展示しています。小中学生向きに岩石の名前をおぼえるコーナーは、自分で手で持ったり、さわったりできるようになって大変人気があります。鳳来寺山地方の特産スズリ石、わが国でもっとも良石とされる三河白砥石も展示し、地方産業の発達と関連して地元関係者に大変喜



ばれている展示です。約5,000年前の人類が生活していたことを実証する石器時代の資料もあります。

## 分類展示(2階)

ここは学生や自然趣味に生きている人々の静かな勉強室としての目的をもつもので、展示ケースの中には、そのほとんどが羅列式の展示で標本が分類学的に整理され、標本索引カード、標本鑑定用の図鑑、参考書なども用意してあります。分類展示室の中には鳳来寺山の南側を通っている「中央構造線」の特別コーナーも設けてあり、中央構造線の専門的な解説もあるため研究者の間で好評です。分類展示室の非常口から外に出ると、鳳来寺山付近の代表的な植物が植栽されていたり、モリアオガエルなどの飼育池もあり、気分転換を図ることができます。

## 展示資料の収集と保存・公開

動物標本1,500点、地学1,200点、植物30,000点を保管し鳳来寺山付近の資料を収集することにつとめています。植物標本は博物館の資料として価値ある存在となっております。当館学術委員、鳥居喜一が40余年にわたり東三河の全域をくまなく踏査して集めたものです。国土開発のかけで絶滅した地域の植物、豊根ダム、鳳来湖など水没した地域の植物なども数多く保存され、研究者の調査資料として得難いものになっております。資料は植物保管室、地学資料保管室、動物保管室に区別して整理保管し関係者の特別な目的により申し出があった場合は貸し出しをしたり公開もしております。

## 館外活動

地域の理科技能を高めるための講習会、採集会、特別展示会と多彩な行事を行い一般の啓発に努めています。

鳳来寺山は動物、植物、地質資料の宝庫となっております。鳳来寺山へ直接登山するよりもわずかな時間をさいて入館し、鳳来寺山についての知識を得てから登山するならば一層の興味を増し有意義な日程となります。

**開館** 毎日8時30分から17時まで、休館一年末・年始  
**交通** 飯田線「本長篠」から豊鉄バス「鳳来寺」徒歩13分